

1 研究の仮説

思考方法と「言葉選びシート」を活用し、多くの詩に用いられている言葉やSNSをはじめとする身の回りの言葉进行分析する活動を通じて自分自身の表現を吟味する場を設定することで、心を温め、心に残り、目にとまる言葉とは何かについて自分の考えをもち、言葉選びにこだわる生徒を育成することができるのではないかと仮説を立てた。

2 単元 「“バズる”と向き合い、言葉を紡ぐ。」

3 指導観

- 一つの話題や単語が一举に注目を集め、爆発的に多くの人に取り上げられる「バズる」という現象が生まれた。いかに価値ある情報を有していても、膨大な情報の中で埋没することなく、注目される言葉を選ぶことができなければ、その価値ある情報が誰かに届けられることはない。

本単元は、複数の詩から印象的な言葉やSNSで「バズった」言葉を分類し、それらの言葉からよりよい言葉選びの定義を見いだして創作詩を修正する活動を通して、「心を温め、心に残り、目にとまる言葉」とは何かを見極め、目的に応じた最適な言葉を選ぶことができるようになることをねらいとする。学習内容としては、随筆の特徴、多くの人々の注目を集める言葉選びの分類、多くの人々の心に残る言葉選びの視点などがある。このような学習内容から、生徒は「バズる」という現象の中にも様々な注目の集め方があることを認識した上で、これからの時代で誰かの心を温め、心に残り、目にとまる言葉とは何かについて自分の考えをもち、そのような言葉を選ぶための視点を獲得することができる。したがって、本単元を学習することは、膨大な情報の中で埋没することなく、情報を届けるための言葉選びの視点を獲得できるという点において、意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、「あらゆる側面から『よりよい言葉選び』の在り方を見極め、心を温め、心に残り、目にとまる言葉を紡いで詩を創作しなさい。」という学習課題を提示し、よりよい言葉選びの在り方を模索させたい。そのためにまず、学習課題を把握し、創作詩を複数書かせる。ここでは、想いを起点として詩を創作させるために、詩を通じて何を語りたいかについて言語化できる学習シートを提示する。次に、既習である複数の文学作品の中から、「印象的な言葉」を列挙させる。ここでは、詩の価値を高める言葉選びの工夫に着目させるために、思考方法【視点換え】を用いて言葉を吟味する場を設ける。さらに、前時までにまとめた「よりよい言葉選びとは」の定義に基づいて、自分が下書きを進めている詩に用いている言葉について再考するよう促す。ここでは、自身が詩を通じて表現したい思いに沿って言葉を吟味させるために、類語辞典を提示し、複数の単語を比較検討するよう促す。最後に、創作詩を完成させ、「よりよい言葉選び」について自身の考えを明らかにさせる。ここでは、「よりよい言葉選びの在り方」について考えを客観的に記述させるために、級友の創作詩と「言葉選びシート」と併せて交流する場を設ける。

4 目標

- 語感を磨き、語彙を豊かにして、詩で表現したい思いに沿った言葉を選ぶことができる。
- 書き手としての意図や伝えたい思いを明確にして題材を決定し、表現を工夫して随筆を書くことができる。
- 目的や相手に応じた最適な言葉について吟味し、心を温め、心に残り、目にとまる言葉で書こうとする。

5 計 画 (12 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の観点
一	2	<p>1 学習課題を把握し、創作詩を複数書いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 詩の特徴 	<p>○ 想いを起点として詩を創作させるために、詩を通じて何を語りたかについて言語化できる学習シートを提示する。</p>	<p>態：学習課題達成のためにテーマを設定し、必要な学習活動について見通しをもっている。</p>
		<p>学習課題 「よりよい言葉選び」の在り方を見極め、附中一学年のスローガンである「心躍る」をテーマに、詩を創作しなさい。</p>		
二	5	<p>2 既習である複数の文学作品の中から、「印象的な言葉」を列挙する。</p> <p>(1) ～ (2) 『朝のリレー』と『それだけでいい』から、作品としての価値を高めている言葉を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 詩の価値を高める言葉選びの工夫 <p>(3) ～ (4) 小学生の頃に学習する複数の詩や文学作品から、作品としての価値を高めている言葉を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心に残る言葉選びの定義 	<p>○ 詩の価値を高める言葉選びの工夫に着目させるために、思考方法【視点変え】を用いて言葉を吟味する場を設ける。</p> <p>○ 選んだ言葉(出典を含む)と理由を明記するシートを提示し、活用を促す。</p>	<p>知：語彙を豊かにして、主題に関わる言葉選びの視点に気づき、自分の考えをもっている。</p>
	本時	<p>(5) SNSで「バズった」投稿を分析し、複数の「印象的な言葉」を整理し、よりよい言葉選びの定義を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目にとまる言葉選びの工夫 	<p>○ 複数の投稿を特性に応じて整理させるために、「心を温める言葉」「心に残る言葉」「目にとまる言葉」という三つの枠で構成される「言葉選びシート」を提示する。</p>	
三	3	<p>3 前時までにまとめた「よりよい言葉選びとは」の定義に基づいて、自分が下書きを進めている詩に用いている言葉について再考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 詩を通じて表現した思い沿った言葉選びの視点 	<p>○ 自身が詩を通じて表現したい思いに沿って言葉を吟味させるために、類語辞典を提示し、複数の単語を比較検討するよう促す。</p>	<p>思：書き手としての意図や伝えたい思いを明確にして、テーマに沿った言葉を選び、詩を書いている。</p>
四	2	<p>4 創作詩を完成させ、「よりよい言葉選び」について自身の考えを明らかにする。</p> <p>(1) 創作詩を完成させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿った言葉選びの在り方 <p>(2) 「よりよい言葉選びの在り方」について自分の考えを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉への客観的な視点 	<p>○ 「よりよい言葉選びの在り方」について自分の考えを客観的に記述させるために、級友の創作詩を、級友の「言葉選びシート」と併せて交流する場を設ける。</p>	<p>態：級友の工夫から自身の文章を見直し、多くの人の心に残る言葉を選んで書こうとしている。</p>

6 本 時 第 4 校 時 計 画 第 二 次 の 5 1 年 2 組 教 室 に て

(1) 主 眼

○ 「言葉選びシート」に書きためた様々な言葉について、目にとまる言葉という視点を加えて分析する活動を通して、よりよい言葉選びの在り方について自分の考えをもつことができる。

(2) 準 備

- ①ご当地キャラクターのイラスト ②言葉の力で「バズった」複数の投稿
③言葉選びシート（クラウド上） ④単元学習シート（クラウド上） ⑤創作中の詩の下書き

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	主な手だて（○）と評価（◇）	形態	配時
（前時まで） ・ 既習の詩から「印象的な言葉」を列挙し、その理由もあわせて書いたものを、「心を温める」「心に残る」という二つのベン図で整理する。		○ 自身の創作詩における言葉選びを客観的に見直させるために、学習課題に応じて既習の様々な詩から「印象的な言葉選びがされている部分はどこか」と問う。		
1 「バズった」投稿を分析する必要性とめあてを把握する。 ・ 情報が目にとまるよう工夫する必要性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">めあて 目にとまる言葉とは何かという視点を含めて、よりよい言葉選びとは何か探ろう。</div>	①	○ 「目にとまる言葉」の特徴を捉える必要性を実感させるために、注目を浴びたご当地キャラクターを例示し、生徒が作成している詩が誰かの目にとまるものになっているかを問う。	一斉	5
2 教師が提示した複数の「バズった」投稿について、どのような工夫が凝らされているか吟味する。 ・ 目にとまる言葉選びの工夫	② ③	○ 複数の投稿を特性に応じて整理させるために、前時で提示したベン図に「目にとまる言葉」という枠を追加した「言葉選びシート」を提示し、「(教師が提示した)投稿のうち、もっとも多くの人々の目にとまる投稿はどれか」と問い、その理由も併せて記述するよう促す。	個 ↓ ペア (任意)	20
3 「よりよい言葉選びの在り方」の定義について、自分の考えを書く。 ・ 心を温め、心に残り、目にとまる言葉を選ぶための視点		○ 心を温め、心に残り、目にとまる言葉を選ぶための視点を獲得させるために、「言葉選びシート」の三つの枠が重なり合う部分が「作成者(生徒)にとってよりよい言葉選びの在り方が現れた部分である」と定義し、その特徴を箇条書きで整理するよう促す。	個 ↓ 全体	15
4 自身が下書きを進めている作品を修正するための見直しをもち、本時の学習を振り返る。 ・ 自身の言語感覚に沿った修正の視点	④ ⑤	○ 自身が考える言葉選びの在り方を具体化させるために、活動3で書きだした「よりよい言葉選びの在り方」に沿って、自身の作品に修正できる箇所がないか問う。 ◇ 心を温め、心に残り、目にとまる言葉とは何かについて、「言葉選びシート」の真ん中に集まった言葉を参考にして、自分の考えを書くことができたか。 <「言葉選びシート」, 学習カード分析>	個	10